

2010年3月期



林兼産業株式会社

決算説明会

2010年5月26日
林兼産業株式会社(東証1部 2286)
代表取締役社長 橋本鉄志

I	2010年3月期 決算概要	2
	林兼産業グループの構成		
	損益計算書の概要		
	経常利益の前年比較		
	セグメント別の売上高・営業利益		
	貸借対照表の概要		
	キャッシュ・フロー計算書の概要		
	四半期業績の推移		
	セグメントの状況(食料品事業、飼料事業)		
II	2011年3月期 通期計画	12
	決算の見通し		
	損益計算書の概要		
	今期の方針		
	設備投資・減価償却費計画		
	中期経営計画「プラス2012」の進捗状況		
III	トピックス	21
	ツナ・フードの展開		
	ツナ・フードの生産ライン新設について		
	蓄養・養殖マグロ生産拠点		

I 2010年3月期 決算概要

林兼産業グループの構成

当社グループは、幅広い食品の製造・販売を行う「食料品事業」、配合飼料の製造・販売はもちろん、水産物や畜産物の販売も行う「飼料事業」、当社グループの円滑な業務推進に貢献する「その他の事業」の3セグメントで構成されています。

（食料品事業）

- ・ 林兼産業株式会社
- ・ キリシマドリームファーム株式会社
- ・ 株式会社林兼デリカ
- ・ 林兼フーズ株式会社
- ・ 都城ウエルネスミート株式会社

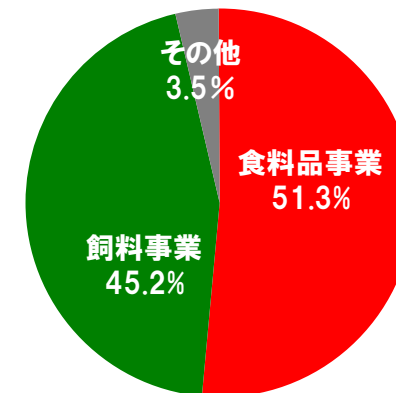
（飼料事業）

- ・ 林兼産業株式会社
- ・ 有限会社平安海産
- ・ 有限会社桜林養鰻
- ・ 志布志飼料株式会社 ※
- ・ 株式会社ベツケイ ※

（その他の事業）

- ・ 林兼コンピューター株式会社
- ・ 林兼冷蔵株式会社
- ・ 株式会社みなと ※ ※は持分法適用会社です

2010年3月期のセグメント構成



2010年3月期のセグメント別売上高

食料品事業	飼料事業	その他の事業
26,472百万円	23,282百万円	1,811百万円

損益計算書の概要

(百万円)

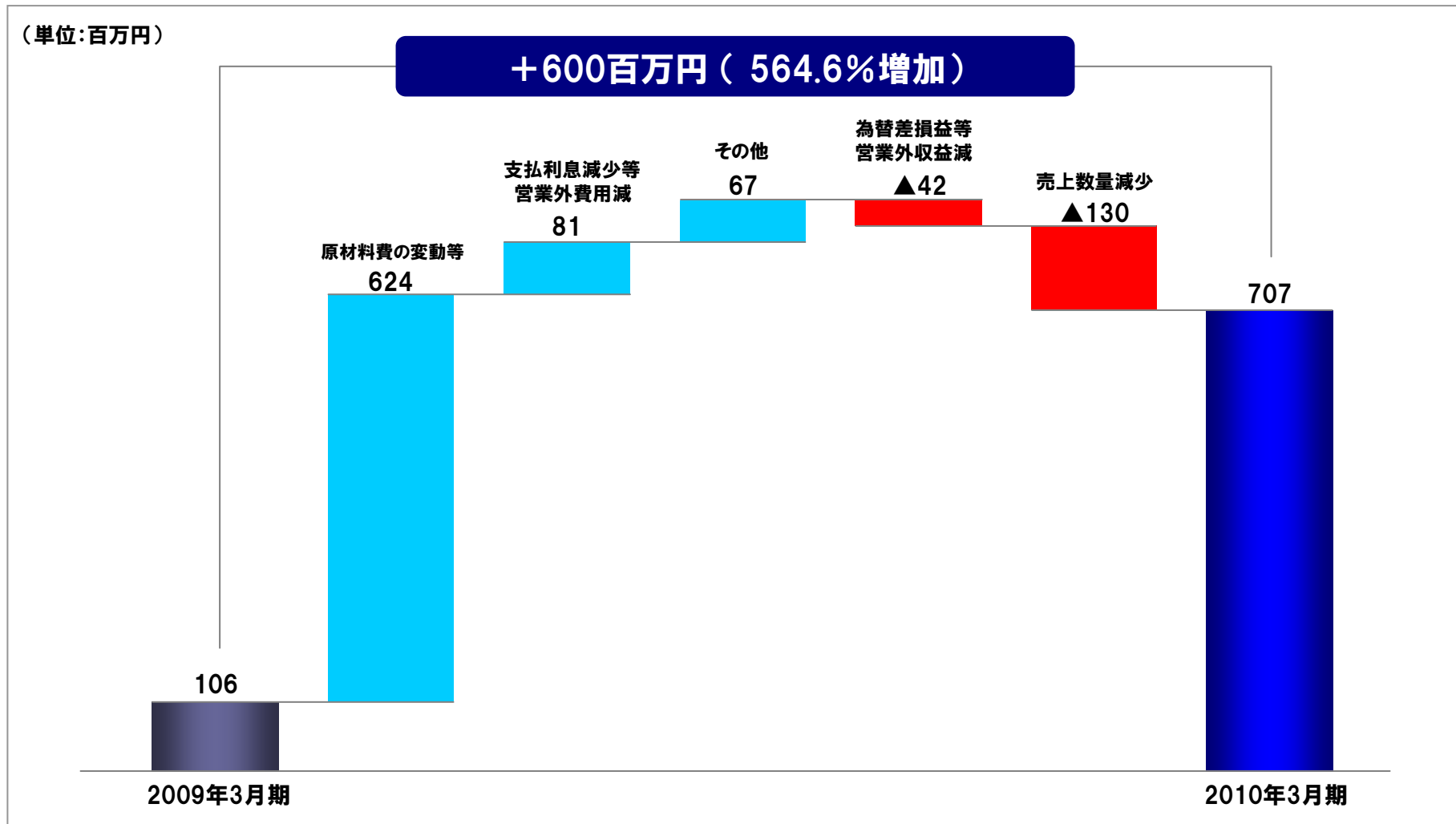
	2009年3月期	2010年3月期			
		当初計画	実績値	前年増減率	計画増減率
売上高	55,465	53,000	51,566	▲7.0%	▲2.7%
営業利益	394	700	956	142.6%	36.6%
経常利益	106	500	707	564.6%	41.4%
当期純利益	▲70	400	96	—	▲75.8%

前期との主な増減要因

- 売上高 (－) 養魚用飼料・畜産用飼料の値下げ、魚肉ねり製品の販売減少
- 営業・経常利益 (+) 原料価格が安定的に推移
- (+) 食肉加工品の販売数量増加による工場生産効率の改善
- 当期純利益 (－) 回収遅延先の債権に対して貸倒引当金295百万円
- (－) 旧関東工場の工業用水契約解除に伴う清算金103百万円

売上高の減少があったものの、原材料の安定推移を主因に大幅増益

(単位:百万円)



セグメント別の売上高・営業利益

(百万円)

	2009年3月期	2010年3月期		
			前年増減額	前年増減率
売上高	55,465	51,566	▲3,898	▲7.0%
食料品事業	25,752	26,472	720	2.8%
飼料事業	27,616	23,282	▲4,333	▲15.7%
その他の事業	2,097	1,811	▲285	▲13.6%
営業利益	394	956	561	142.6%
食料品事業	681	929	247	36.2%
飼料事業	752	1,072	320	42.5%
その他の事業	152	147	▲4	▲3.1%
消去又は全社	▲1,192	▲1,192	▲0	—

貸借対照表の概要

(百万円)

	2009年3月期末	2010年3月期	
			前年増減
流動資産	13,860	12,706	▲1,153
固定資産	15,896	16,846	949
資産合計	29,756	29,553	▲203
流動負債	17,441	17,294	▲146
固定負債	7,106	6,895	▲210
負債合計	24,548	24,190	▲357
純資産合計	5,208	5,362	154
負債純資産合計	29,756	29,553	▲203

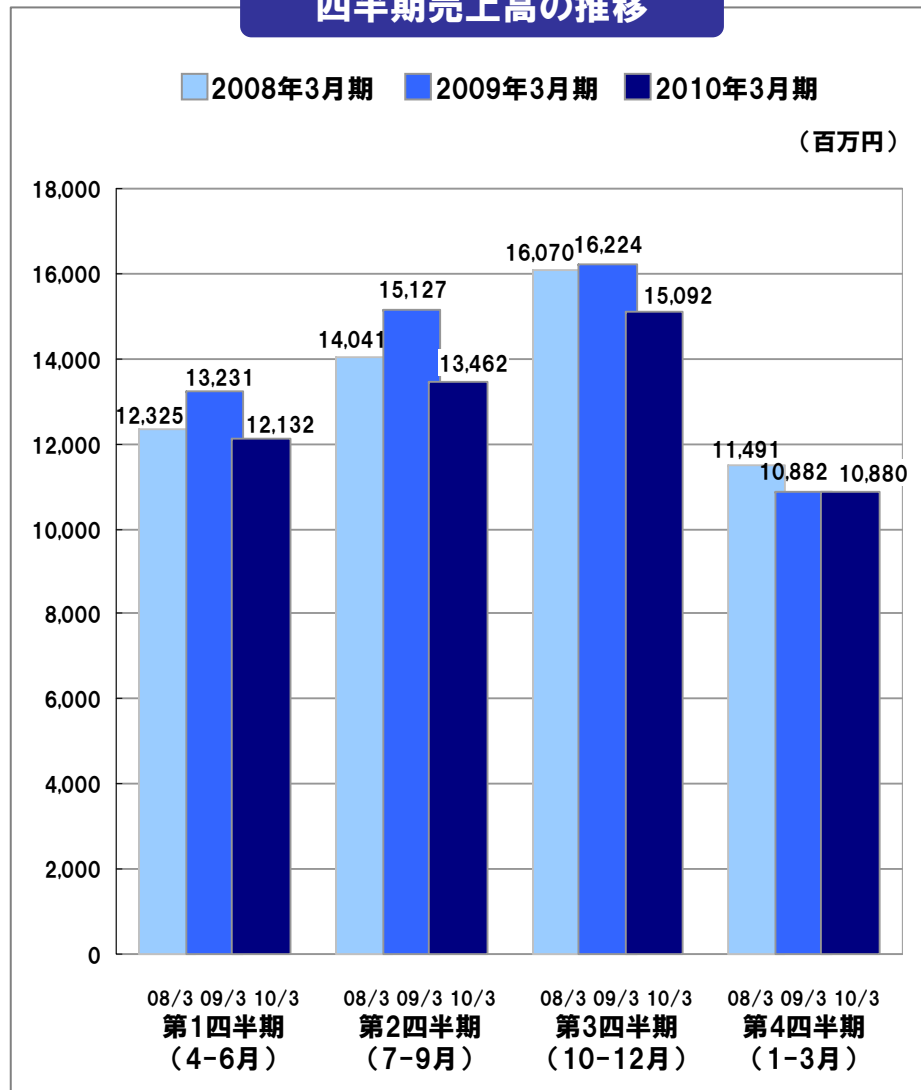
キャッシュ・フロー計算書の概要

単位:百万円

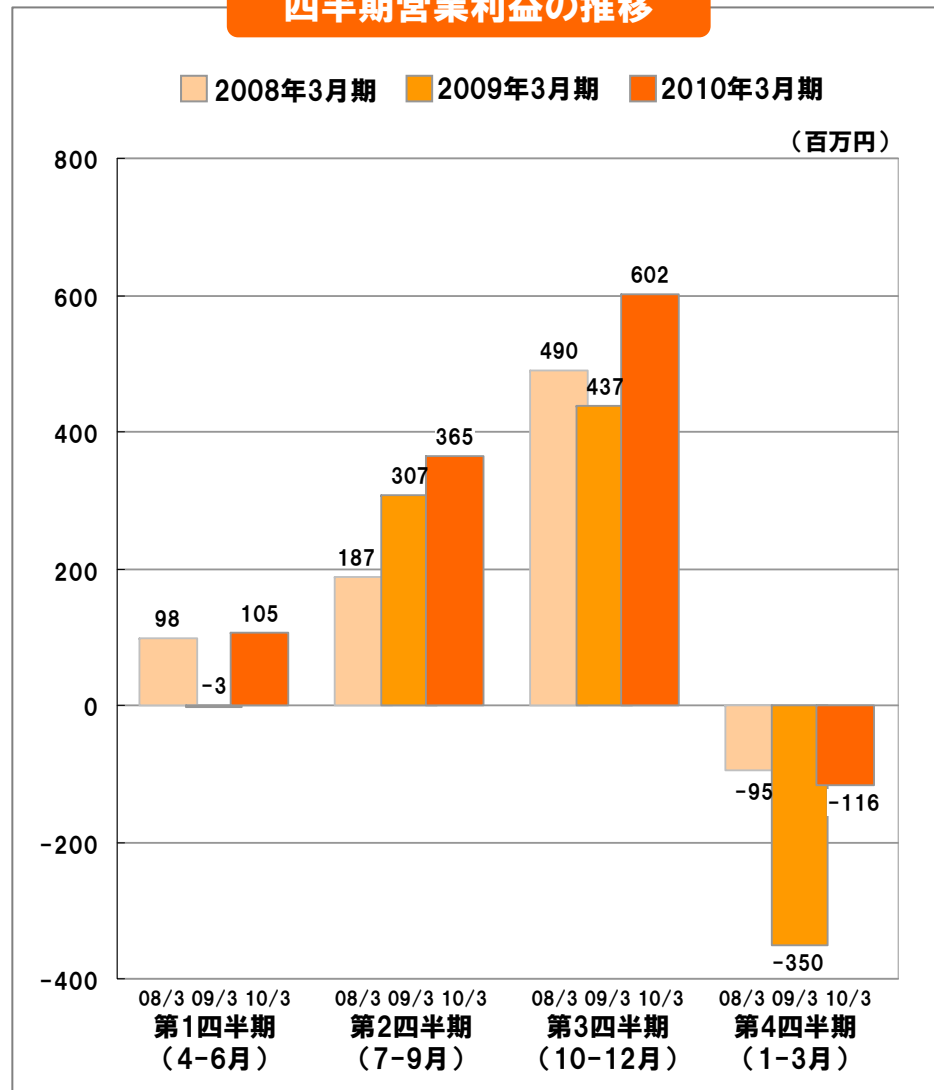
	2009年3月期	2010年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	284	1,617
投資活動によるキャッシュ・フロー	734	▲387
フリー・キャッシュ・フロー	1,019	1,229
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,076	▲1,337
現金及び現金同等物の増減額	▲57	▲106
現金及び現金同等物の期首残高	2,074	2,017
現金及び現金同等物の期末残高	2,017	1,911

四半期業績の推移（売上高・営業利益）

四半期売上高の推移



四半期営業利益の推移





概況：魚肉ハム・ソーセージの販売減少するも、工場生産効率改善や原材料の価格安定が寄与して大幅増益。

水産食品

- ・ 魚肉ハム・ソーセージの販売数量減少
- ・ 香港向け輸出製品の販売量増加
- ・ 新製品の開発、新規取引先の開拓

加工食品

- ・ 主力OEM企業の実績強化による生産数量の維持
- ・ 新規業務用得意先の開拓による生産数量の拡大
- ・ 新規得意先の獲得

食肉

- ・ 霧島黒豚の新規得意先開拓の促進
- ・ ギフト事業の拡大、収益改善
- ・ 豚肉加工品・調理品の開発

機能食品

- ・ ソフミートの委託給食企業及び宅配給食業者への提案
- ・ ソフミートの新アイテム上市(白身魚・青魚・さけ・いか)、ブログ型HPの開設
- ・ エラスチン拡販(美容分野を中心とし血管系エビデンスを付加した提案および勉強会の実施)



概況：値下げによる減収の一方、原材料の価格安定が寄与して大幅増益。

養魚用飼料

- ・ 7月の赤潮被害でハマチ用飼料は販売数量減で減収
- ・ 水産物相場の低迷の影響を受け、安価な生餌使用により、EP飼料は販売数量減で減収
- ・ 原料価格の安定、ヒラメ用・種苗用の高評価により利益確保
- ・ 「ツナ・フード」による世界初の配合飼料単独によるミナミマグロ養殖に成功

水産物

- ・ 消費不振による販売数量減で減収
- ・ 魚価相場の低迷による減収
- ・ 販売不振が続く中、収益重視の販売を行い利益は確保

畜産用飼料

- ・ 畜産物相場低迷の影響で販売数量減少
- ・ 主原料価格の下落で利益確保

畜産物

- ・ 「純国産赤鶏さつま」の販売に傾注
- ・ 消費低迷に伴う冷蔵品の販売数量減少
- ・ 冷凍在庫圧縮による減益

II 2011年3月期 通期計画

生活防衛意識はさらに高まり、個人消費の低迷、商品価格の下落が続く想定。
また、養魚飼料用魚粉価格が年初来高騰を続けており、外部環境は厳しい状況であるとの認識。

- 売上高 **54,000**百万円（前期比4.7%増）
 - ・ 食料品事業 : **26,900**百万円（前期比1.6%増）
 - ・ 飼料事業 : **25,300**百万円（前期比8.7%増）

- 営業利益 **620**百万円（前期比35.1%減）
 - ・ 食料品事業 : **1,190**百万円（前期比28.1%増）
 - ・ 飼料事業 : **650**百万円（前期比39.4%減）

- 経常利益 **350**百万円（前期比50.5%減）

- 配当 今期は無配を継続する予定

損益計算書の概要

(百万円)

	2010年3月期実績	2011年3月期 計画			
		第2四半期累計	前年増減率	通期計画	前年増減率
売上高	51,566	26,500	3.5%	54,000	4.7%
食料品事業	26,472	13,200	3.0%	26,900	1.6%
飼料事業	23,282	12,400	4.4%	25,300	8.7%
その他の事業	1,811	900	▲0.3%	1,800	▲0.6%
営業利益	956	180	▲61.8%	620	▲35.1%
食料品事業	929	520	44.3%	1,190	28.1%
飼料事業	1,072	330	▲45.4%	650	▲39.4%
その他の事業	147	30	▲72.8%	70	▲52.5%
消去又は全社	▲1,192	▲700	—	▲1,290	—
経常利益	707	70	▲82.2%	350	▲50.5%
当期純利益	96	20	—	210	117.3%

営業利益減少要因について

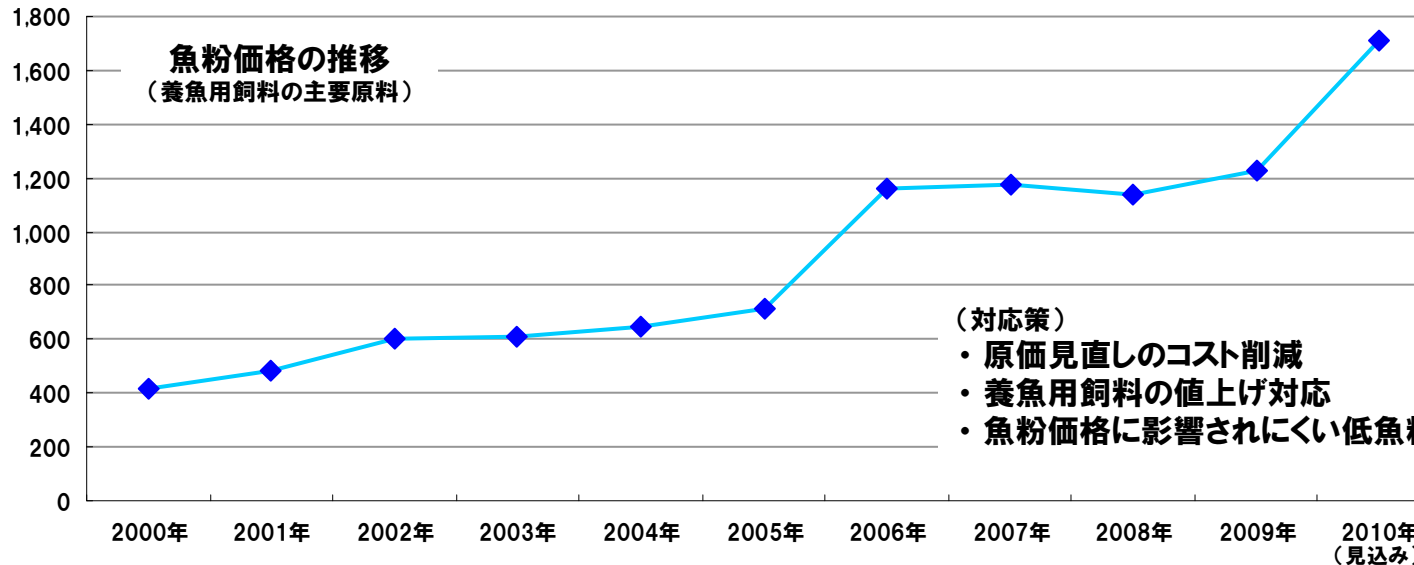
(百万円)

	2010年3月期実績	2011年3月期 計画	
		第2四半期累計	通期計画
営業利益	956	180	620
食料品事業	929	520	1,190
飼料事業	1,072	330	650

飼料事業において減益予想

➡ 魚粉価格の上昇が顕著であり、2010年度の養魚用飼料の魚粉価格は高止まりする見通し

ハンブルグ相場
(単位:ドル/トン)



平成23年3月期の経営方針

- ① 組織・セグメントを変更 意思決定のスピード強化を図り、収益基盤を強化
- ② 成長基盤への投資 ツナ・フードの展開加速、海外展開の足固め

(旧組織図)



水産食品事業部
畜産食品事業部 に分割



変更なし

(新組織図)



水産食品事業

既存商品の拡販と新商品開発を強化

水産食品

- ・マジックカットソーセージの認知度・特売頻度アップにより製造数量の安定化
- ・香港向け製品の拡売対策(長期的売場の確保・既存品の認知度向上・新規顧客の確保)
- ・自社工場でのレトルト製品他の生産品を開発

機能食品

- ・ソフミートの開発および拡販(アイテム数増・用途提案)
- ・エラスチンの拡販を図るため、新しいエビデンスの付加および研究の促進
- ・「咀嚼困難者」および「特定病者」向け新製品の開発

畜産食品事業

ブランド認知度アップ、安定した生産数量の確保に注力

加工食品

- ・安定した生産数量を確保し固定費の吸収をおこない黒字安定化を図る
- ・自社の営業基盤の構築を目的に新規得意先の開拓
- ・生産技術、生産設備を保持し、メーカー基盤を強化

食肉

- ・外部購入品の販売効率改善による収益拡大
- ・ギフト事業の拡大、収益改善
- ・豚肉加工品・調理品の開発強化

飼料事業

原材料価格に影響されにくい体質作り、将来への成長投資を実施

養魚用飼料

- 魚粉価格に影響されにくい、差別化商材の構築による利益確保
- 下関工場における、「ツナ・フード」の生産ライン増設 →
- 顧客のニーズへの迅速な対応と提案活動により販売数量確保

詳細はトピックスへ

水産物

- 九州地区および外食産業の新規開拓
- 「うまかぶり」ブランドを活かした差別化販売の構築
- 活魚取引の収益改善

畜産用飼料

- 拡売活動による販売数量増(前年対比105%)
- 総合的なコスト見直しによる収益確保
- 黒豚・赤鶏用飼料の季節に応じた配合設計の見直し

畜産物

- 「純国産赤鶏さつま」の拡売に努め、事業収支の安定化を図る

(百万円)

		2010年3月期	2011年3月期
設備投資合計	取得	352	776
	リース	460	512
食料品事業	取得	122	395
	リース	413	481
飼料事業	取得	200	341
	リース	13	14
その他	取得	29	39
	リース	34	16
減価償却費		731	834

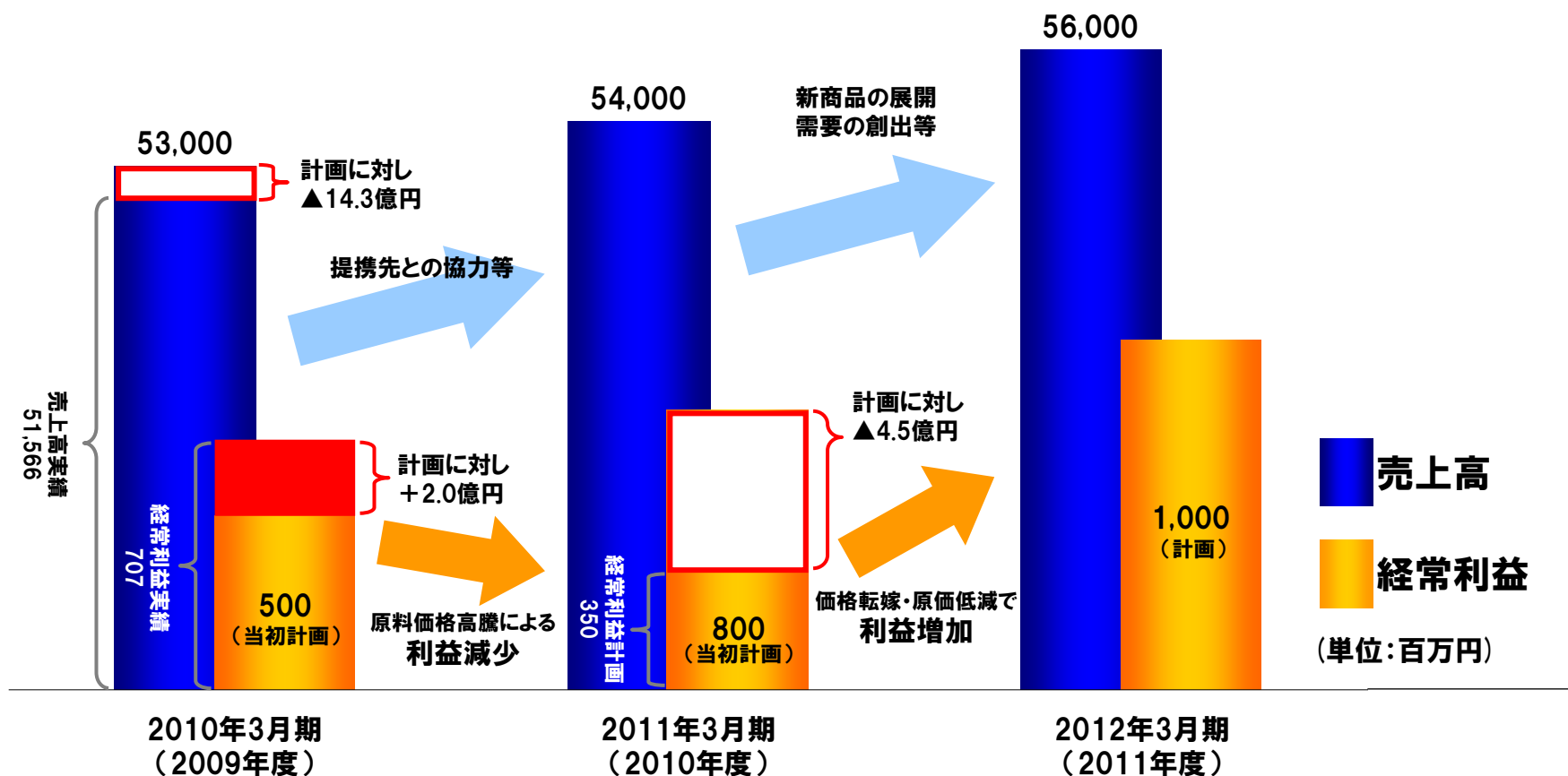
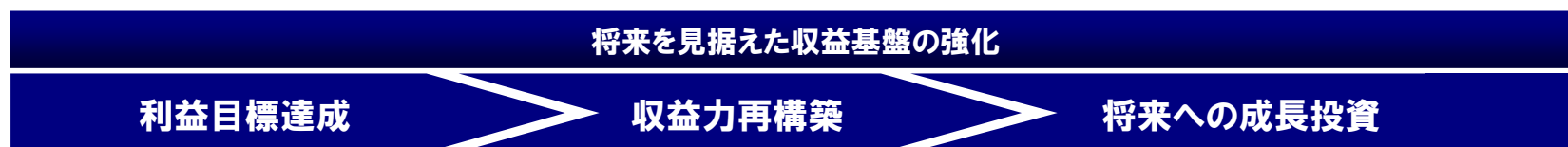
※食料品事業の2011年3月期計画は、水産食品、畜産食品の合算値

主な設備投資計画

食料品事業 魚肉ねり製品製造設備更新、キリシマドリームファーム豚舎維持・改修

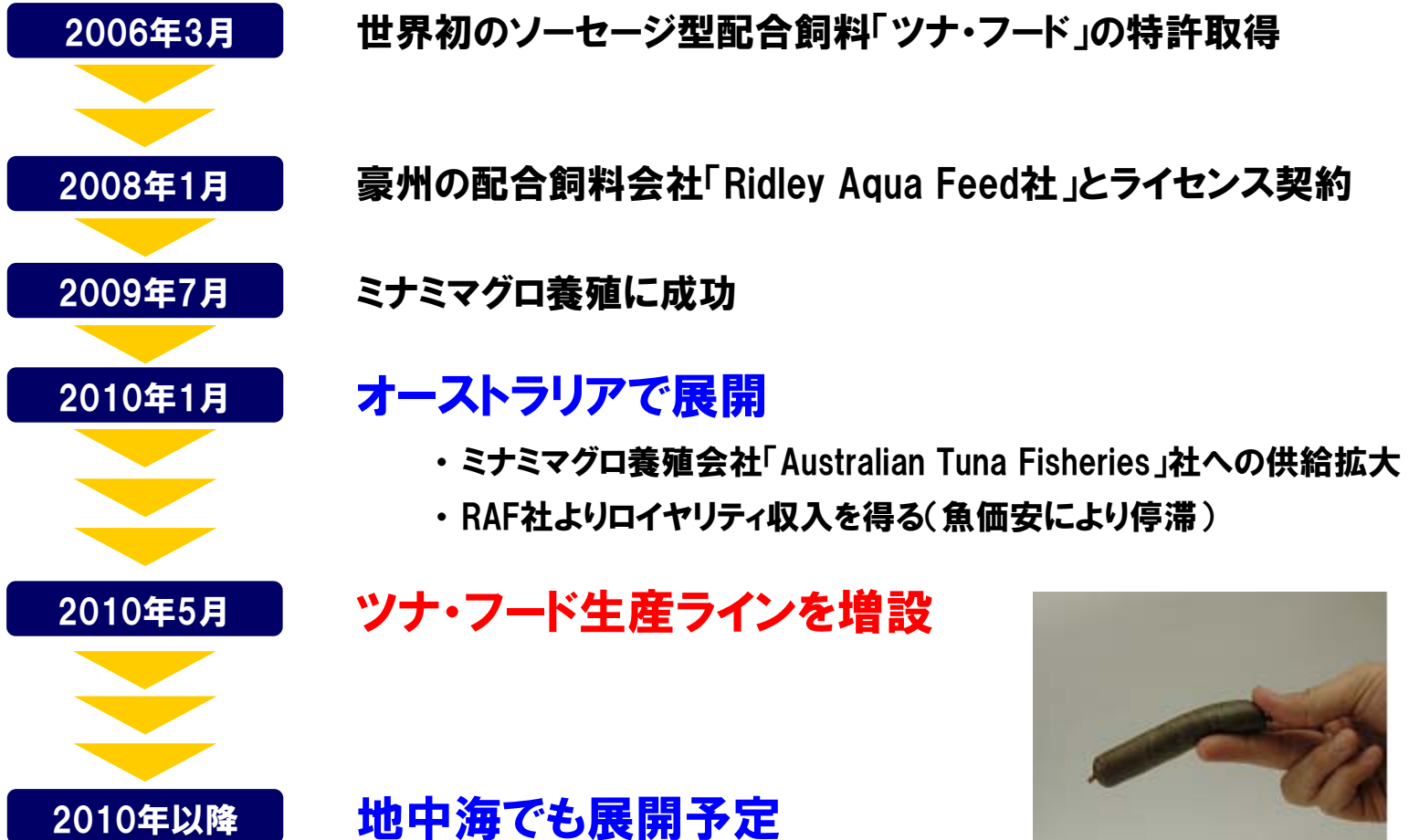
飼料事業 ツナ・フード製造設備増設、養魚用飼料製造設備更新

外部環境へ左右されない体質作りを推進。最終年度目標は変更せず、成長軌道回帰を目指す



III トピックス（ツナ・フードの展開）

ツナ・フードの事業展開



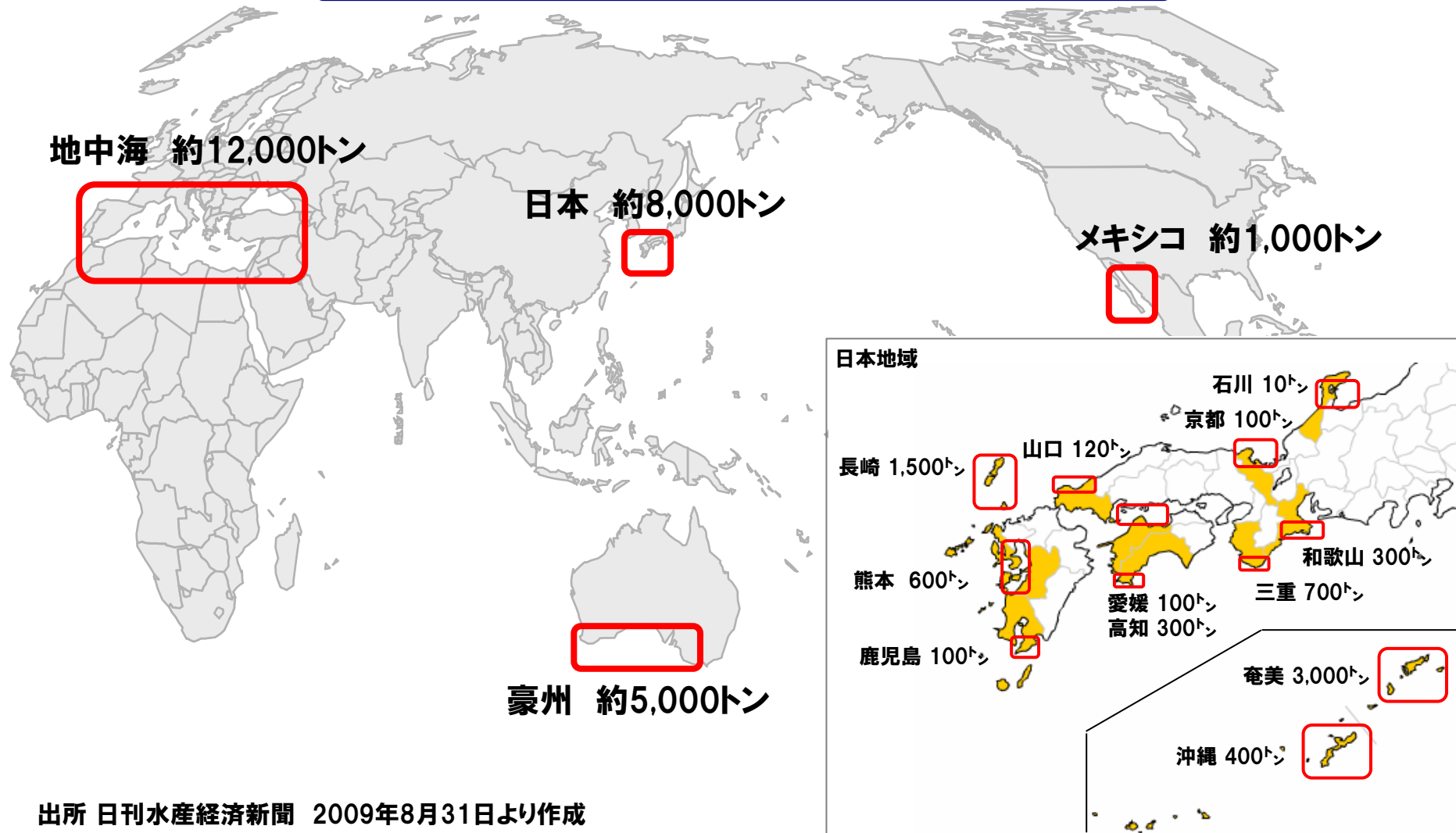
5月21日 飼料事業部下関工場に、「ツナ・フード」専用製造ラインを設置 「ツナ・フード」年間生産量を約5,000tへ引き上げ



▶▲「ツナ・フード」製造ラインと竣工式の様子

「ツナ・フード」とは2006年に特許取得した(特許番号3776096号(株)マルハニチロ水産と共同特許)可食性フィルムに栄養素を詰め込んだソーセージ型の飼料です。「ツナ・フード」は従来の配合飼料に比べ摂餌誘引性が非常に高く、成分や大きさを自由に調整することが出来るため、それまで生エサでないと養殖できなかった大型マグロ(クロマグロ・ミナミマグロ)を配合飼料単独で、安全かつ高品質に養殖することが可能となりました。更に、「ツナ・フード」は配合飼料の利便性と安全性も兼ね備え、海中への溶出も少ないため環境汚染もなく、継続的かつ安定的なマグロ養殖を可能にします。

2009年 世界の蓄養・養殖マグロ生産拠点





本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

IRお問い合わせ先
林兼産業株式会社 管理本部総務部
TEL 083-266-0210
IRサイト <http://www.hayashikane.co.jp/ir/index.html>